

子どもしんぶん…… さん太タイムズ

2021年(令和3年)
5月30日(日)
毎週日曜発行!

発行所
山陽新聞社
岡山市北区柳町2-1-1

「山陽子ども記者ネットワーク」初の取材ツアー

きょう

りゅう

がく

さい

せん

せん

せま

恐竜学 最前線に迫る

肉食恐竜・タリササウルの頭部レプリカ
ヒロコ 石垣恐竜長の説明を聞く参加者



おかやま 理科大の博物館 石垣恐竜館長と巡る

小学生から大学生までの会員制組織「山陽子ども記者ネットワーク」初の取材ツアーが4月25日、岡山理科大の恐竜学博物館（岡山市北区理大町）で行われました。今回の参加者は小中学生9人。石垣恐竜館長が案内し、「化石は地球が残した手紙のような存在です。本物を見ると気付くことがたくさんあります」と語りました。参加者がそれぞれの視点で恐竜学の最前線に迫り、記事を書きました。（写真・中村映一郎）
= 2、3面につづく

注目1

実物もレプリカも重要な記録



倉敷市 倉敷第一中 1年 石田 大知 1年

恐竜学博物館には標本室があります。種類が豊富で実物とレプリカがあります。後世に記録を残すため一番大切な場所です。

恐竜学博物館は発掘調査から研究まで、レプリカも重要な記録と見たり、恐竜時代の植物を育てたり、化石の組み立て作業の様子も見えたりします。また生物としてのつながりを調べるため、現代の動物、主に鳥類も研究していま

す。石垣恐竜館は本や動画だけでなく、一方向の情報しかないこともありますが、今の生物と似ているところが、今もあり、ぜひ博物館を訪れて

いといします。実際に現場に足を運んだ方が



岡山市 岡山大付属中 1年 矢延 悠行 1年

「実際に化石やレプリカを見て、骨の様子や形状などをじっくり観察すること。より理解が深まり、新しい発見につながるそうです。化石という地球に残したメッセージを受け取り、風化させない

標などで化石調査をしています。暑い砂漠に何日も滞在し、クワが無いのでトランクの下の日陰

で見ると、化石や世界最大級の恐竜の調査の大変さに驚きました。凶悪な恐竜の姿を決めるのが疑問だったので尋

ねると、化石に残る物質から色を推定できることもあるそうです。石垣館長が大切にしているのは

めていきたいと思いました。



恐竜学博物館

岡山県倉敷市・タルボサウルスの全身骨格レプリカは全長約10mあり、迫力満点

研究成果を体感 研究の情熱



玉野市 由井 小6年 三浦 和希 1年

石を見るときは骨や歯の数を人間の体と比べながら見るとよいです。ポイントを意識すると化石を楽しく観察できました。

岡山理科大の恐竜学博物館に行き、石垣館長に話を聞きました。化石がきっかけとなって、新しい発見につながったとき「やはり、展示品だけでなく、恐竜を研究して

いる現場が全部見えるからです。恐竜などの化石を見るとき、今は、地球温暖化が進んでいます。このままだと、私たちが人類も

を調査したところ、5秒以上見ただけで、博物館で大型骨格を見る時間

は4人のうち1人だったそうです。化石は自然環境の大切



岡山市 大谷 大5年 小谷 優希 5年 ノノ 清付 1年

約10倍もあるタルボサウルスを観察すると、骨のつがいがどこか

へ大きく、数人も人間と比べて多かったです。後ろの骨のつがいで

でも私の体と同じぐらいの長さで、大きくなると、骨のつがいが大き

な後、脚から足、体を支える大きさがありました。あれだけ大きな化石を触ることができまし

た。早速一番興味を持った全長

ネットワークショップ会員募集中

「山陽子ども記者ネットワーク」は会員を募集しています。会員になると、記者体験や新聞の読み方などを学ぶNI E教室、インターネットを使ったアンケートに

応募できます。対象は小学生から大学生まで。特典としてクリアファイルをプレゼントします。

右のQRコードから必要事項を入力してください。お問い合わせは、山陽新聞社NI E推進部 (086-803-8075、平日の午前10時～午後6時)。



新発見「恐竜に選ばれたと思う」

注目1

ゴビ砂漠発掘
苦勞垣間見る



岡山市 岡山大付属小 5年 高橋 孝文

通「ガマ」張りの化石処理室でのクリーニング作業など、研究の前線に触れることが可能です。また、モニョル・ゴビ砂漠での発掘作業は気温42度の日もある過酷な環境で数ヶ月にもわたる行われ、館内はその様子を伝える写真や資料もずらり。研究者の苦勞と身骨格レプリカや小型の植物食恐竜・プロトケラプス、日本ではどこで見られないというゴビハドロスの骨格標本などが展示されています。

同博物館は研究活動自体も展示の一つとして、石の骨格標本など、恐竜研究の今、を知りたければ、命名してあります。その言葉

窓から見える植物にも工夫



岡山市 芳泉小 5年 奥井 美希

また、窓から見える景色も工夫していることで、感じています。それは、ソネやナヨラスなどの裸子植物やシダ植物など、恐竜がいた時代の植物を植えたいからです。

「恐竜博物館ではなく、恐竜学博物館。学」が、けっのガミで、す」と石垣恐竜館が教えてくれました。その理由は、恐竜研究の現場を見学できるからなんです。恐竜の展示以外にも楽しむことができます。「何回でも来てく張りなので、学生さんが化石クリーニングや標本を作製して、すよ」とおっしゃいました。今回は学生さんが作業している様子は一見られなかったのですが、また見学できるときに行きたいです。

地下水の成分で骨の色に違い



岡山市 美小 4年 塚本 奏音

ですが」と質問しました。化石の色が違っているのは、化石が埋まっている地下水の中に溶けているものが骨に染み込むことで色が違って、その成分がそれぞれ違ってくるからと教えてくれました。

私は、岡山理科大の恐竜学博物館に行きました。そこには、さまざまな化石があり、それを見ただけでもモニョルが上がりまして、化石が埋まっているので、石の成分が違っているの、ゴビ砂漠での研究は、モニョルの研究を聞いて、私には、前から恐竜や化石に興味があり、将来発掘する人になりたいと思います。けれど、石の成分が違っているの、ゴビ砂漠での研究は、モニョルの研究を聞いて、私には、前から恐竜や化石に興味があるの、その成分がそれぞれ違ってくるからと教えてくれました。



植物食恐竜・サウロロプスの脚の化石と復元画。動きを想像できます

現代の動物骨格も参考になる



岡山市 岡山大付属小 3年 高橋 孝文

ました動物の構造について、恐竜の時代から現在まで切れ目がないように研究することで、分かることがたくさんあります。中でも鳥の構造は恐竜に近く、研究する上でとても参考になるそうです。

学校の自主学習で、ネズミや人などの骨の名前や筋肉の付き方を調べ、恐竜の骨格などにも興味を持つべく、恐竜の骨格などを取柄しました。大きき、群れの行動などもさまざまなことが分かります。

私たちは恐竜や化石そのものの全身骨格レプリカやプロトケラプスの赤ちゃんの集団の化石などを向かいますが、恐竜学博物館は、私たちが同じ脊椎動物である恐竜が、この地球上に生きていたことを身近に感じさせてくれると思います。

研究場所を見学できる博物館



岡山市 泉森町 森小 3年 藤田 莉

ことです。響く時間が遅いことにおどきました。

発掘調査のときに使う道具について質問すると、それは化石をクッチするたためのものでした。最近ではロープで写真を撮ることや、学博物館で取材をすることもできます。自分で描きながら、「学博物館」と「学」が付いているのは、「研究の場所」といいます。昔の恐竜と今、生き物と違って、化石の成分が違っているの、ゴビ砂漠での研究は、モニョルの研究を聞いて、私には、前から恐竜や化石に興味があるの、その成分がそれぞれ違ってくるからと教えてくれました。

私は、岡山理科大の恐竜学博物館に行きました。そこには、さまざまな化石があり、それを見ただけでもモニョルが上がりまして、化石が埋まっているので、石の成分が違っているの、ゴビ砂漠での研究は、モニョルの研究を聞いて、私には、前から恐竜や化石に興味があるの、その成分がそれぞれ違ってくるからと教えてくれました。

現場の感動伝わる

講演

取材ツアーの参加者は、恐竜学博物館の化石などをよく観察し、岩垣恐竜館に次々と質問して熱心にメモを取っていました。

事の内容はバラエティーに富み、読んでいて楽しかったです。巨大な全身骨格を前にした驚きや、研究者の熱い思いに触れた感動が伝わってきました。同じ場所を訪れ、同じ人の話を聞いても、取材する人によって記事は大きく変わるんだと改めて感じました。今後とも山陽子ども記者ネットワークの皆さまの喜びを体験してほしいです。(さん太タイムズ編集部)